

普及活動情勢報告（平成29年12月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

省力技術となるか！ ～促成サヤインゲン現地検討会～



1条植え区と慣行区を見比べて

11月27日、J A土佐くろしお管内のほ場で現地検討会を開催し、8戸の農家が参加しました。

J A営農指導員や実証ほ農家に、省力化が期待される1条植えを試験的に行っているほ場の栽培状況を見てもらいました。また天敵を利用したI P M技術の推進、今年の気象状況を踏まえた栽培管理について情報提供を行いました。

参加者から「慣行栽培と栽植本数、費用、作業は違う？」といった1条植えに関する質問や、参加者同士で天敵導入や今年の気象と栽培状況について情報交換を行う姿が見られました。

農業改良普及課は、今後も実証農家や関係機関と協力してサヤインゲン部会の技術の向上や普及に取り組みます。

安定生産に向けて ～キュウリ現地検討会～



説明を聞く生産者

12月15日、須崎市内現地圃場でキュウリの生産者19名が参加し、環境制御技術、I P M技術の現地検討会を開催しました。環境制御技術の基礎である温湿度管理とリモニカスカブリダニ等の天敵利用方法について説明しました。

生産者からの「キュウリが太らない、回転が悪い」という声に対し、温湿度管理の光合成、転流や呼吸への影響を説明し、ほ場内の保温管理が重要であることが理解されました。また、「ミナミキイロアザミウマと天敵の生態を知り、効果的な農薬散布や天敵の放飼時期の検討が必要」といった声も聞かれました。

農業改良普及課は、今後もキュウリの安定生産に向けて環境制御技術とI P M技術について、現地検討会や勉強会を通じて普及に取り組み、農家のレベルアップに繋げていきます。

やる気アップ！ ～ピーマン部会現地検討会を開催～



ピーマン部会現地検討会の様子

11月30日、ピーマン部会からの要望で、農業担い手育成センターでの現地検討会を開催しました。

参加者からは、整枝や仕立て、植栽密度の違いによる収量の違いや炭酸ガスの日中施用濃度について質問が出ていました。

農業担い手育成センターのほ場を見学したことで、自身のピーマンの栽培方法の改善を検討しているようでした。

農業改良普及課では、今後も栽培技術の向上に取り組み、情報提供や巡回支援を強化していきます。

栽培技術向上を目指して ～ハウスシシトウ現地検討会を開催～



ハウスシシトウ現地検討会の様子

11月24日、JA土佐くろしおハウスシシトウ部会の現地検討会が開催され、22名が参加しました。

農業改良普及課からは、かん水管理や光合成など基本的栽培管理について説明した他、炭酸ガス施用効果やIPM技術について、周知しました。

かん水管理の事例や天敵の情報について質問があり、基本技術の再確認や新しい天敵の導入を検討していました。

農業改良普及課では、今後も栽培技術の向上に取り組み、情報提供や巡回支援を強化していきます。

厳寒期の収量向上・育苗の適正化を目指して！ ～ニラ現地検討会を開催～



ハウス内環境は適正に管理を！

12月14日、JA土佐くろしおニラ部会が、須崎地区および中土佐地区で現地検討会を開催し、生産者15名が参加しました。

JAから販売情勢の報告、農業改良普及課からは厳寒期の温度管理や白斑葉枯病等の病害虫対策、春期の定植に向けた育苗管理について説明し、ほ場内の電照設備を視察しました。

参加者からは、病害対策の薬剤使用方法についてや、天窓の開閉間隔といった栽培管理に関する質問がありました。

農業改良普及課は、今後もJA等関係機関と連携し、現地巡回や部会活動を通じて、ニラの収量向上を目指し、支援していきます。

集落営農の先進地に学ぶ！ ～津野町集落営農先進地視察研修～



法人の話聞く参加者

11月24日、津野町集落営農先進地視察研修が開催され、兵庫県(株)五斗長営農を視察し、農家19人、津野町3人が参加しました。

視察では、集落を守るために「集落営農」という選択をしたことや、組織設立についての話し合いの経過や現在の体制について研修しました。

参加者からは農家以外の人への法人への関わりや会計面について質問が寄せられ、「今後の話し合いの参考になった」との声も聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して集落営農組織化に向けて支援します。

地域にあった組織作りを目指して ～津野町白石地区集落営農先進地視察研修～



七折れ生産組合視察研修

12月4日、津野町白石地区の16名、津野町役場2名が集落営農組織立ち上げに向け、愛媛県七折れ生産組合を先進地視察しました。

視察先の愛媛県七折れ生産組合では活動内容や地域活性化のための組織運営等について研修しました。参加者からは、梅の剪定等栽培方法や梅祭りの地元対応等の多くの質問があり、関心の高さが伺えました。白石地区は集落活動センターの立ち上げも検討されており、集活の生産部会との関わり等、「今後の話し合いの参考になった」との声も聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して集活センターとの連携も含め、集落営農組織化に向けて支援します。

集活と連携した組織作りへ ～越知面営農組合設立支援～



組織結成に向けた役員会

12月5日、榑原町越知面地区の集落営農組織立ち上げに向けた役員会が8名の参加を得開催されました。越知面地区では集活センターが立ち上がり、生産部会の実働部隊として越知面集落営農組織の立ち上げが計画されています。

そのため、組織の規約、集落への説明、受託オペレーターの確保等が話し合われました。委員からは、「オペレーターの確保に集落をまわろう。」「各集落はまだ集落営農について認識が薄いかもしれないので説明する必要がある。」等の意見が出されました。

農業改良普及課は、榑原町役場等関係機関と連携し、組織立ち上げに向けて支援していきます。